

第6回 多摩市街路樹よくなるプラン改定委員会 要点録

日時： 平成30年6月1日（金） 9時15分～11時20分

場所： 多摩市役所東庁舎1階会議室

出席者：【委員】（敬称略）

池邊 このみ 大石 武朗 大橋 久仁恵 清水 義功 仙仁 径 中尾 浩
野村 徹郎 沼田 真也

【事務局】

都市整備部長 森田
道路交通課長 内田
道路交通課整備保全担当主査 山本
道路交通課整備保全担当 芦澤・高橋

【傍聴】0名

議事次第

- 1 開会
- 2 議事
 - (1) 平成30年度の委員会の進め方・スケジュール
 - (2) 素案に関する市民懇談会とパブリックコメントの報告
 - (3) 多摩市街路樹よくなるプラン改定版原案作成について
- 3 その他

1 開会

・森田道路都市整備部長より開会の挨拶

2 議事

(1) 平成30年度の委員会の進め方・スケジュール

1)事務局より資料-1及び2を用いて、標記議題に関する説明を実施

2)質疑応答

■ワークショップ

副委員長：よくなるプランにどのように反映させていきたいのか、アウトプットさせたいのか、ワークショップ（以降、WSとよぶ）開催の目的を明確にする必要がある。知識レベルを上げたいのか、街路樹のファンを増やしたいのか。参加者の知識レベルだけが挙がっても今後に繋がらないので注意する必要がある。

事務局：本WSは、街がどうつくられているかを理解していただく機会として考えている。第1回及び第3回のWSは、市民アンケートの回答で関心の高い3路線のうち2路線を対象として景観のイメージについて現状を把握いただき、それを踏まえて今後必要となる整備方針をご理解頂く機会であると考えている。第2回の子供向けWSは、自由研究などに取り上げてもらえるようなテーマ設定にして多摩市街路樹のファンになってもらいたいという目的で想定しているが、これまでのアンケート等の対象外となっていることから、意見を吸い上げたいという意図もある。

委員長：乞田川のサクラについては、寄付や更新の考え方を示す機会ととらえるとよい。メタセコイア通りは、今美しいものが5年先どのように維持していくのか維持費用も示して考える機会とするとよい。

事務局：教育委員会等でアドバイスを頂いているところである。理科教育の面のほか、都市の自然は人により管理されてできているものであることを理解いただきたい。ESDとの観点でも、教育と街路樹とのつながりは強いと考えている。樹木の見方をどのように市民に伝えていくかの試行とも考えている。メタセコイア通りについては、改善の取組のイメージなどをフォトモンタージュ等の技術も利用して、参加者に示していくことも検討している。

委員長：樹木の授業ではないので、多摩市の街路をきれいにするにはどうすれば良いか、多摩市のあるべき姿はどういったものをイメージしてもらおう、そのような機会になると良いのではないかと。「参加してよかった」という達成感を持たせ、次に繋がるようなテーマを持たせることが必要である。

委員：第4回委員会の資料で、ワークショップの目的が示されている。ここからの発展として今年度のワークショップを検討することが必要である。

委員長：時間や人手の課題もあると思うが、お昼ご飯を食べながらなど参加者同士

が言葉を交わし、意見交換ができる時間をつくると、一体感が生まれ、イベントに参加したということ以外に人と人のつながりができると思うので、開催時間帯の検討も望まれる。また、現地開催は人手が多くかかる割に参加者の注意が一点に向かないことが多い。子供が対象であればなおのこと屋内外で半々程度の活動を想定するとよいのではないか。親が子供を行かせたいと思うもの、WSを通して、キーマンが育っていくものが望ましい。楽しかった体験が次にWSに繋がる。

副委員長：まちがどう作られているのか理解してもらう機会を設けるといふ大きなテーマは賛同するが、子供向けWSにおいてはテーマをピンポイントに絞り込むことが望ましいのではないか。

副委員長：自由研究にできる簡単なプロジェクトがよいのではないか。街路樹の役割などが直接、理解出来なくてもよいと思う、実体験、試すぐらいのもので今後に活かし、楽しませ、ファンを作る。知識を上げるなら資料の用意をする、などである。

委員長：お誘いの言葉やキャッチフレーズを工夫して、また参加したくなるWSを企画すると良い。

委員：記念品などがあるとより参加者が増えるのではないか。

委員：燻製等も流行っているため、利用方法について議論しても面白いのではないか。

事務局：乞田川については街路樹点検を踏まえ伐採予定の木が10本あり、伐採材が発生する。伐採材の配布や利用方法などリサイクルについての議論など検討していきたい。人の手によって街がどのように作られているか理解してもらえようようにしたいと考えている。

委員：樹木などの知識がない人にとっても参加しやすいテーマ設定や募集要項とすることが望ましい。サロンなど気軽に参加できるものがよい。

委員：子供向けWSの開催場所の想定はあるのか。

事務局：開催場所は未定であるが、安全面を考えて小学校周辺の遊歩道内での実施を想定している。

委員：父兄も同行可能と考えているのか。子供向けであれば、議論ができる中学生くらいが良いと考える。

事務局：父兄も同行可能とするが、参加者は小学生（高学年）のみを対象とするものと想定している。

(2) 素案に関する市民懇談会とパブリックコメントの報告

- 1) 事務局より資料-3 及び 4 を用いて、標記議題に関する説明を実施
- 2) 質疑応答

■パブリックコメント

【全体】

委員：一般的なパブリックコメントの対応では各意見に対する市の考え方を示すが、前段に全体的な意見を受けての市としての全体的な方針を示すことが望ましいと考える。予算について、市民参加について等、個別に答えたほうが親切である。

委員：いくつかの内容を含む意見が一つの欄にまとめられているがあるので、個別に回答するのがよいのではないか。

【市民参画について】

委員：市民参画について、安全管理の観点から道路の街路樹の管理を市民に依頼するのは難しいのではないか。

委員：チェーンソー等は難しいと思うが、高枝切りばさみ程度ならできるのでは。

委員：多摩市では公園を対象にしたグリーンボランティア制度があり技術者の養成講座も開催している。街路樹は公園等広く作業範囲が取れる場所と違うため、安全管理面での注意が必要であり、作業内容が制限される。

委員長：市民参画として、灌木やグランドカバーの植え付けや管理が考えられる。お金出していただけると、花を育てること、通報していただくことも市民参画となる。

委員：資格の必要性がある作業など、安全基準を明確に示すことが望ましい。

副委員長：市民に依頼する目安を明確に示すことが必要である。草刈りは市民実施を依頼し、樹木の大きさによって剪定は市に通報いただく等の目安である。

委員：子どもの目の高さに鋭い枝の切り口が残るような剪定がされていたりすることがあり、危険もある。

委員：市民参画の内容と危険な内容は避けることの明示が必要である。市民に作業を依頼するにしても対処する時期や手法についても指導が必要である。

委員：よくなるプランに市民参画について盛り込むのか。

委員長：素案に該当箇所があるので盛り込む必要がある。市民参画は、灌木の手入れなど労働作業のみではなく、危険木の通報やドナー（寄付者）なども含まれる、この全体イメージをよくなるプランの中で示していくことが必要であると考え

事務局：街路樹に関しては、アダプト制度があり、この制度をもとに取り組み内容の拡充を検討していきたい。

委員：アダプトについては、活動内容に関する文書の取り交わしを行うだけでなく、定期的な講習会を開催し、技術面での支援も必要である。

委員：剪定の実施要望の意見があったが、5～6年間剪定されずに放置されている場所はあるのか。

事務局：長期に渡って対応できていない路線も一部存在する。管理が行き届いていない状況がある。

(3) 多摩市街路樹よくなるプラン改定版原案作成について

1)事務局より資料-5 及び 6 を用いて、標記議題に関する説明を実施

2)質疑応答

■第1章

委員：P. 1-1 街路樹の機能について、絵などのビジュアルでイメージを示すことができると良い。将来を見据えた管理方針、街路樹整備の評価手法、剪定後の樹形評価のフィードバック、上手くできていない場合のペナルティを課す等の施工業者への評価手法の記載等についても検討してほしい。

■第2章、3章

委員：2章では、近隣市と比較して人口当たりの街路樹本数が多く、市民の負担が大きいことを示されているのか。また、これまで第一段階までの対応で精一杯で、今後第二段階以降に対応するにはもっとお金がかかると理解してよいか。

委員長：そのとおりである。街路樹管理を先延ばしにすると更に負担が大きくなる。また、市民が減少すると一人当たりの負担も大きくなることから、人口を増やしていくことが必要である。

委員：街路樹整備は美しいまちづくりの必要経費であることを理解いただく必要がある。街づくりへ投資し、多摩市の人口を増やすことが望ましい。

副委員長：美しい街整備が行われている海外や横浜市などでは、みどり税が徴収されている。投資が必要であることを強調した方がよい。

委員：現状の過小評価ではなく、発展的な方向にふれられないか。街路樹を植える空間がたくさんあるのでどう活用し、まちの魅力付けに寄与し、人口を増やすという流れを示すことが必要であると考え。

委員：安定的な収入源として、みどり税を設定することも検討してよいのではないか。時間をかけて市民に説明する必要があるが。

委員：市民アンケートでも、寄付の金額について数千円単位での回答が多かった。

委員長：みどり税導入には、検討から実際の導入まで長い時間がかかる。そのため初めは基金の創設がよいと思う。横浜市のみどり税は一人 900 円、これが多摩市で出せれば問題は解決する。横浜市のみどり税は農地や樹林地の購入、街路樹にも利用している。何にどう使うか。樹木の更新の際に子供の名前を付けて植えてもらう記念樹や伐採した樹木で椅子作り等、本市への導入が考えられる手法はいくつかある。シティセールスの一部にするのが今回のレガシーになる。

副委員長：みどり税に限らず、管理費として税を支払っているからには支払ったりの良い整備が必要である。

- 委員：剪定が終わって、いい樹形になっていないところが随所にある。施工業者の選定が重要で、技術があり、きちんとやってくれるところを評価するのが大事である。施工業者の技術向上等、業界に対する指導も必要である。
- 事務局：現場状況や樹種の特性等をふまえて、仕様書に従い剪定作業を実施してもらっているが、剪定技術については、市民から意見をいただくこともある。
- 委員長：名古屋市は細かく基準や仕様書の中に剪定方法等が明記されている。
- 委員：表 2-1 「景観上の課題等」に示している写真に、不適切な剪定による樹形の写真も示すと良いのではないかな。
- 委員：図 2-7 に示された 3.8m、4.5m 等が何を示した数値なのか分かりにくいいため、路側帯から建築限界を示す等、表現を工夫すること。
- 委員：テーマや方向性に関連して、第 5 回委員会時点の案に比べ、最終的な素案で、よくなったように思う。多摩市は、他の市に比べても道路が広く魅力的な街である。
- 事務局：委員長及び副委員長との協議の上、「身の丈にあった…」という文言は「メリハリをつけた管理」という文言に変更している。
- 委員：「メリハリをつけた…」というのも優先順位をつけた管理を行うということで良いと思う。

■第 4 章

- 委員長：表 4-1 に示す内容は、何をどう評価するか、今後どこまで対応するのか、内容を充実させる必要がある。
- 委員長：図 4-2 で「市民参画」とは何かを示すことが必要である。現場での実作業（ハード面）に携わる内容だけでなく、その周りで色々な参画の方法があることを示すことができると良い。もっと大きなドーナツ状で資金援助や道具の援助、お花見の後のゴミ拾い等も含まれる。地域の活動に拘束して入るのは特に若い方にとっては難しいものである。
- 委員：WS は市民参画の管理作業に参加する人を募集する意味合いにもなるのではないかな。
- 委員長：たとえば、子供向けの WS 等を電鉄事業者にお金を出していただき、継続的に実施するなど可能な取り組みではないか。その参加した子供たちが大人になり、改めて多摩市に住みたいと思うような循環にしていくことが望ましい。
- 副委員長：委員会で決めた路線でもあるので、改善モデル路線の見直し、変更の必要はない。
- 委員：図 4-4 現状の評価については、危険性に関する視点に加えて、「樹形の乱れ」、も加えるべきではないかな。

■第 5 章

- 委員：図 5-2 評価とあるが、何をどう評価するのか、また、どうフィードバックす

るのかを示す必要がある。

委員長：本事項については、今後の委員会等で議論していくことと想定している。

■全体

委員：大径木をどうするのかといった記載や方針が不十分に感じる。将来的に大径木を発生させないプランなど先を見据えた方針をより具体的に示す必要がある。

委員長：伐採ありきのところと更新のところの具体化について議論が必要である。

副委員長：大径木化が問題なのか、良いのか、バランス良く配置する等、考え方を示す必要があると思う。

4 閉会

- ・内田道路交通課長より閉会の挨拶